

和歌山県の遠隔医療の現状

- 和歌山県は山間へき地が多く2次医療機関まで時間がかかる地域が多く存在
- 紀の川流域や県内主要河川の下流域を中心に人口が集積し市街地を形成
- 19の県内公的病院も河川の下流域を中心に設置されている
- 500床を超える大病院は和歌山市にのみ存在
- 平成26年4月に県内13医療機関と和歌山医大を結ぶ遠隔医療システムを設置済み
- 地域卒業生の支援(講義配信)にも使用

- 平成26年4月から遠隔医療システムを用いて
 - 講義配信8回(のべ12施設)
 - 遠隔診療4人(のべ11回)
 - 大学病院を退院後の通院
 - 専門的相談のため
- 県民・医療機関に説明するもなかなか利用者が増加しない



実証実験(案)

和歌山医大附属病院



専門医

現状は

- 診療の記録は正式なカルテ？
- 自分で処方できない
- 診療報酬なくインセンティブは？

指導・助言

相談

地域の中核病院



- 診断・治療に難渋する症例を相談し指導・助言が得られる

診察・投薬

- 相手方病院は看護師だけでも対応可能
- 専門医は診療録を記載し処方する
- 診療報酬は専門医側にも

診察



- 遠くまで通院する手間が省ける

※患者のメリットをそのままに地域の中核病院の負担を減らすことができる